

# 葛原新町楽【くずはらしんまちがく】



開催場所	北九州市小倉南区葛原 4-3-1 葛原八幡神社
開催日 指定	10月26日 市町村指定無形民俗文化財

## 【芸能の概要】

葛原新町楽の起源は定かでないが、1684（天和4）年、鑄造の刻印が残る「古鉦」が現在も大切に保存されている。牛馬に悪疫が流行した折、平癒祈願の楽（太鼓踊）を天満宮に奉納したのが始まりとされている。江戸後期には雨乞い祈願で踊っていたことが記録に残っていることから、その頃は盛んに踊っていたことがうかがえる。

楽は、言上、うちわ、笛、鉦、太鼓で構成される。踊りは、言上の奉上から始まり、杖使い（うちわ使いが兼ねる）の演技の後、太鼓踊が行われる。

## 【芸能の特徴】

成立の時期は定かではないが、1684（天和4）年鑄造の刻印が残る「古鉦」が現在も大切に保存されている。牛馬に悪疫が流行したおり、これを鎮めるために天満宮に平癒祈願の楽を奉納したのが始まりと伝えられる。1835（天保5）年には雨乞祈願で踊ったことが記録されており、江戸時代後期は盛んに行われていたようである。天満宮は、明治45年に葛原神社境内へ遷座された。また新町楽は豊前地方に分布する太鼓踊りの一つである。

昭和30年頃までは大人、子供で楽を行っていた。第二次大戦中一時中断したものの、昭和51年に復興し、葛原新町楽保存会が結成された。それ以後は、子供たちを中心に楽が行われるようになった。現在は、10月の最終日曜日に葛原市民福祉センター、葛原天満宮、葛原八幡神社で毎年、奉納されている。

## 【使用する祭具・道具など】

太鼓は胴と皮を麻縄で組み付けて使用する。太鼓の調子は麻縄の締め具合一つで決まるため、踊りが終わるたびに、保存会員が調整する。また、太鼓は10m程の長い帯を使い、胸のあたりに固定する。

### ・アクセス

西鉄バス葛原小学校前バス停より徒歩10分

### ・周辺の観光

千仏鍾乳洞、平尾台、合馬竹林公園、志井公園  
井手浦の尻ふり祭り（1月）  
春祭貫のお祓い（3月）  
平尾台観光まつり（7月）  
隠蓑のしびきせ祭（12月）

### ・近くの特産品

大葉春菊、フグ、一粒カキ、小倉牛

